

## 令和6年度 第2回 第5期鶴見・あいねっと策定検討プロジェクト 議事要旨

日時：令和6年12月20日（金）14：00から16：00

場所：鶴見区役所6階8・9号会議室

委員：石井委員、板山委員、祝出委員、大野委員、押山委員、小林（政）委員  
齊藤委員、清水委員、巴委員、八森委員、日向委員、浜田委員、平森委員、福井委員、増子委員、松坂委員、宮野委員

事務局：【区役所】福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、福祉保健課長、  
福祉保健課事業企画担当係長、事業企画担当職員  
【区社会福祉協議会】事務局長、事務局次長、事務局職員

### 1 開会（進行：福祉保健課長）

- ・本日の流れについて説明。
- ・写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認。
- ・配付資料の確認。

### 2 福祉保健センター長あいさつ

本日はお集まりいただきありがとうございます。

皆さまにおかれましては、鶴見区の福祉保健行政に多大なるご理解とご協力をいただいておりますことを、御礼申し上げます。

本日のプロジェクトでは、年度当初から進めていたアンケート調査等の結果がまとまりましたので、御報告させていただきます。また、第4期の振り返りやこれまでいただいたご意見を踏まえて、第5期の方向性の案を作成したため、ぜひ忌憚ないご意見をいただければと思っています。

第5期計画は地域の皆さまの想いがつまった計画にしたいと思っています。

本日は最後までどうぞよろしく願いいたします。

### 3 本日のプロジェクトについて（説明：事業企画担当係長）

第5期区計画策定体制について、大きな方向性を確認する鶴見・あいねっと推進委員会の下に、具体的な内容の検討を行うこの策定検討プロジェクトを設けさせていただいている。

プロジェクトメンバーは推進委員会の委員に加えて、前回のプロジェクトにも御参画いただいた3名のうち、東宝タクシー株式会社 代表取締役の大野慶太様、鶴見区特化型ポータルサイトこれつる 編集長の浜田貴也様の2名にお越しいただいている。前回のプロジェクトにてお伝えしたが、一般社団法人 Omoshiro 代表理事の勝呂ちひろ様は、今回ご欠席となっている。

#### 〈第5期鶴見区地域福祉保健計画策定スケジュールの説明〉

区計画の策定は、市計画策定から2年遅れとなるため、今年度から策定の検討に入っている。ゴールとしては、7年度中の策定完了だが、それに向け、今年度は「方向性」を確定する大事な年度となる。方向性は、第4期計画では、基本理念、推進の柱、推進

の土台に加えて、行動目標なども入った、いわば骨子のようなものだが、10月25日の第1回プロジェクトにおいて皆さまからご意見いただいた内容を基に第5期の案をご用意しているため、ご確認いただければと思う。

来年度の具体的な予定については、本日のこのプロジェクトの内容を踏まえて検討した上で、お示しさせていただく予定である。

#### 〈本日の議題の説明〉

区役所で夏から秋にかけて「区民アンケート調査」と「地域分析調査」を実施したため、その概要について報告させていただく。

また、区社会福祉協議会でも「関係団体アンケート調査」を実施したため、その結果も報告させていただく。

その上で、あいねっと推進委員会や前回の策定検討プロジェクトで皆さまにご確認いただいた内容に加え、区役所、区社協、地域ケアプラザの第4期期間中の取組の振り返りも含めて、第4期計画の総合的な振り返りとして報告させていただく。特に10月のプロジェクトで皆さまからご意見いただいた内容を踏まえ、第5期計画の方向性案を作成したため、それについて説明させていただく。

色々な方の意見を伺う中で、この鶴見・あいねっとをより発展させていくためには、あいねっとをもっと皆さまに身近に感じていただくことが重要だというご意見もいただいている。

推進委員会の委員と比較して、これまであいねっとがそこまで身近ではなかった東宝タクシーの大野様とこれつるの浜田様に御参画いただいているため、お二人から、方向性案の事務局からの報告を受けて、御意見を頂戴できればと思っている。

お二人からいただいたお話を受け、皆さまには、よりあいねっとを身近に感じていただくためにどうしていけばいいかについて、グループ内で意見交換いただければと思う。最後にグループでの意見交換内容を踏まえ、八森委員に全体的なまとめをしていただく予定である。

#### (1) 統計分析等説明

##### ア 区民アンケート及び地域分析調査の結果について（説明：事業企画担当職員）

推進委員会や策定検討PJの場で振り返りを行っていただいていた。

区役所・区社協・地域CPにおいても取組の振り返りを行い、前回の策定検討PJで説明した。

それと並行しながら、この夏に区民アンケート調査を行い、あいねっとに関わっていない方も含めて区民の考えを把握した。併せて、公表されている統計データなどについて、鶴見区に関わる部分をまとめた。

本日はそれらのデータについて、あいねっとの柱に結び付けながら説明していく。

#### 〈柱1〉

柱1は「つながりのある地域づくり」だが、それらに関連するデータを集計をした。

大きく分けると、現在地域活動をしている方、していない方に分かれる。

活動している方の中にも、担い手側になっている方と参加しているというだけの方がいると思うので、その二つに切り分けて考えていきたい。

活動していない方については、活動に対する参加意向を確認していきたい。

## ■データ及びそこからわかること

### ① 担い手

- ・自治会町内会加入率の直近3年間の推移について、少しずつ減少している状況である。
- ・加入率が高いから担い手が多い、加入率が低いから担い手が少ないと一概には言えないが、いわゆる担い手の多さを判断する一つの指標としてご報告させていただいた。
- ・市全体でも少しずつだが減少傾向にある。

### ② 地域活動への参加状況

- ・20代以下、30代については、それぞれ80代以上、70代の参加率と概ね同程度の割合であった。
- ・50代は他の年代と比べて参加率が低くなっている。
- ・ライフステージに応じて地域活動を継続できる仕組みづくりが大切であると考える。

### ③ 活動への参加意向

- ・現在活動していると回答した人の割合は多いとは言えない状況であった。
- ・「今は参加していないが、今後は参加してみたい」と回答した方がどの分野の活動でも概ね3割から4割程度おり、その方々をいかに取り込むかが重要であると考える。
- ・「どのような状況であれば活動に参加しやすいか」については、「活動場所が近くにある」と答えた方の割合も多いが、「気軽に参加できる活動があること」と答えた方の割合が最も多かった。

### ④ 近所との関わり

- ・年代の上昇に伴い、近所の人との関わりの程度は増加する傾向にある。
- ・40代以上の方は、どの年代も概ね同程度の割合で近所との関わりを密にすることを希望している。一方で、30代は割合が低く、20代以下は30代と比べてさらに低い。

### ⑤ 特定の状況でのニーズ

- ・「高齢や病気等で日常生活が不自由になった場合、近所で手助けしてほしいこと」という問いについては、20代や30代は「話し相手や相談相手」を求めていると回答した方が、他の年代と比べて多かった。このことから30代以下の方についても、近所との関わりを求めているというわけではないと考える。

### ⑥ 災害時の地域での助け合い

- ・「災害時に地域での助け合いが行われるためには、日頃からの地域での顔の見える関係が築けていることが必要だと思うか」との問いに対し、約86%の方が「とても必要だと思う」あるいは「必要だと思う」と回答している。

## 〈柱2〉

柱2は「必要なときに支援が届く地域づくり」だが、それらに関連するデータを集計した。

### ■データ及びそこからわかること

- ・認知症高齢者生活自立度Ⅱa以上の人数は、コロナ禍前の2016年から2018年にかけては徐々に増えていっている状況にあった。その動きも踏まえると2022年から2023年にかけての大幅増は、1年間で大幅に増えたという訳ではなく、コロナ禍で何らかの影響により一時的に認定者数が減っていただけであり、コロナ禍前の状況に戻っただけとも考えられる。
- ・認知症キャラバンメイト、認知症サポーターの数は着実に増加していき、地域で見守る体制は充実してきているとも考えられる。
- ・要介護度認定データについて、要介護の認定を受けた方は概ね増加傾向にある。特に要介護度3以上の方は少しずつ増えてきており、支援が必要な人は増加していると言える。
- ・外国人住民数は右肩上がりであるため、相互理解や多文化共生の考え方が今後重要になるだろうと考えられる。
- ・「多文化共生のまちづくりを進めるために、あなたは何かができますか」という問いについては、「あいさつなど声をかけあう」と回答した方が、回答者数の7割以上であった。
- ・「近所で高齢者や障害のある方の介助・介護や子育てなどで困っている家庭があった場合、どのような手助けができると思うか」という問いについては、6割半ばの方が「声かけ・見守り」と回答しており、支援につなげていくためには、まず声かけ・見守りからだと考える。

## 〈柱3〉

柱3は「健やかに暮らせる地域づくり」のため、それらに関連する項目を集計した。令和元年度の調査項目に加え、新たにコロナ禍に関する質問を入れている。

### ■データ及びそこからわかること

- ・「新型コロナウイルスの感染症拡大前よりもあなたが一層大切と思うようになったこと」という問いについて、「健康な心身の大切さ」が約半数、「身近な医療機関を持つことの大切さ」は約29%が「一層大切と思うようになった」と回答している。
- ・過去1年に健康診断、歯科健診を受診したかという問いでは、令和元年度の調査時より受診率が増加しており、健康に対する意識の高まりが行動に表れているとも考えられる。
- ・「自らを健康と思うか」と「地域活動の参加状況」のクロス集計をした結果、自らを健康と思う人ほど地域活動への参加率が上昇する傾向にあった。このことから、もちろん現在健康でない方でもつながりを作れるようにということが大事だが、まずは今健康にいる人が将来も健康にいるということが、地域活動を活性化させていくためには重要であるとも考えている。
- ・「地域の中であったらいいなと思う交流の場」についての問いでは、地域サロン（地域で気軽に集まれる場所）と回答した方の割合が最も高かった。前回調査との比較でも、地域サロンと健康づくり・介護予防ができる場所は割合が増えている。気軽に集まれる場とともに健康づくりについても需要が高まっていると考えられる。

・あいねっと第4期計画の指標を振り返ると、目標は概ね達成できており、唯一「近所づきあいの頻度」が未達の状況であるが、コロナ禍の影響もあるかもしれない。

・以上、柱ごとにデータを抜粋してまとめたが、今日紹介した以外にも柱に関連するデータはある。お手元の報告書を後日見ていただければと思う。

#### イ 関係機関アンケートについて（説明：区社協事務局職員）

鶴見区社協では、区社協の会員に第5期「鶴見・あいねっと」策定のための関係団体アンケート調査を実施した。その結果について報告を差し上げたい。

##### ① 貴団体の地域活動の年数の問いについて

活動団体地域活動の活動年数は26年以上が最も多く、今後もできる限り続けたい意向がある一方で、半数近くが担い手不足を課題に挙げている。

##### ② 「貴団体が活動していく中で、区役所や地域ケアプラザ、区社協に具体的にどのような支援を期待しますか」の問いについて

・支援者へ期待することとして、情報提供の充実、人材確保（担い手の発掘）、他施設や団体との連携づくり、活動への助成などが挙げられている。

・鶴見区社協としては、会員組織としてのネットワークを生かし、種別を横断したつながりの機会を充実するとともに、福祉以外の分野も含め会員の枠を超えたネットワークづくりにも取り組む必要があると考えている。また、様々な切り口で担い手の発掘・育成を行うとともに、コーディネート力強化により一層取り組む必要がある。

##### ③ 「関わりのある団体や関係機関は」の問いについて

団体の連携先としては『自治会・町内会』や『地域ケアプラザ』『地区社協』などの地域団体が多い一方で、商店街・企業、NPO・ボランティアはまだ少ない状況。今後は、これらの団体を通して福祉分野を超えた団体との連携を支援することが必要だと考えられる。

##### ④ 「鶴見・あいねっと」の認知度に関する問いについて、

・「内容を含めよく知っている」団体が60%を超えており、第4期の間に活動団体の中では理解が進んだと考えられる。

今後、さらに認知度が上がるよう団体を通して住民の皆さまや民間企業等の福祉以外の団体にも理解が広がっていくことが期待される。

以上のことを次期計画の参考としていきたいと考えている。

#### (2) 第4期計画の全体振り返り（説明：事業企画担当係長）

第1回のプロジェクトで報告した内容に加え、10月の策定検討プロジェクトで新たに確認しあったことや、具体的な取組として、区役所・区社協・地域ケアプラザで進めているものもありますので、それらを補記するような形をとっている。

#### 〈柱1〉

第4期計画は行動目標として下記の3つを掲げていた。

- ① 多世代でのかかわりなど、地域の交流を深めます
- ② 関係団体、機関が連携し、取組を充実させます

③多様な主体が参画し、地域活動を活性化します

これらを基に「大切にしたいこと」について、皆さまに議論いただいたかと思う。「大切にしたいこと」から導き出したものとしては、『多様な人や団体が参加し、つながっている地域』である。

〈柱2〉

第4期計画は行動目標として下記の3つを掲げていた。

- ①誰もが必要な支援につながるしくみづくりを進めます
- ②見守りの輪を地域全体に広げ、支援につなげます
- ③安心して自分らしく日々過ごせるよう、権利擁護を推進します

これらを基に「大切にしたいこと」については、皆さまに議論いただいたかと思う。「大切にしたいこと」から導き出したものとして『困ったときにお互いに気づき、助けあえ、支援が届く地域』である。

〈柱3〉

第4期計画で下記の行動目標を掲げていた。

- ①地域での健康づくり活動に取り組みます
- ②住民がすすんで健康づくりを始め、続けられる環境を整えます

この目標に対する具体的な取組を基に「大切にしたいこと」について皆さまに議論いただいた。

大切にしたいことから導き出したものとしては、『誰もが自分らしく、健やかでいられる地域』である。

〈推進の土台〉

推進の土台は、第4期計画で取り入れたものである。5年前の同様の策定検討プロジェクトや推進委員会の中において、「人材」「相互理解」「場・機会」の3つを、全ての地域活動を充実させる共通の要素として整理し、新たに「推進の土台」として据えたという経緯がある。

取組自体は全て柱1から3に紐づくものだが、「人材」「相互理解」「場・機会」を充実させるべく、第4期期間は進めた。

推進の柱は木であるのに対し、推進の土台は木の根っこと土で表現していた。そして空が基本理念である。計画期間は令和3年度から開始となるが、実際に策定したのは令和4年ということで、策定してから約3年経過した中で、この推進の柱の木は、推進の土台から養分を吸収して成長して、大きくなってきた、ということが言えるかと思う。

第4期期間中、地域では様々な取組が行われたところである。

■小野町の「Machi-Kirei」

未来の担い手の中学生も一緒に地域に関心をもつきっかけとして、スポーツ競技の要素と地域活動の要素を融合させた新たな取組として実施された。

■鶴見みんなの会

多文化・多世代の交流の居場所で、だれもが参加できる場となっている。当初は参加側であった中学生達が、今では担い手側としてアイデアを出すなど、担い手、参加者という垣根を超えたつながりが生まれている。

## ■地域と何ができる会

宮野委員の寺尾第二地区の取組である。小中学生たちの地域への思いや要望を引き出しながら、地域と学校が連携をして取組の実現にむけて検討していく会である。

地区別計画で地域の皆さまと振り返りを実施していく中でも、「人材」は柱1、「相互理解」は柱2、「場・機会」は柱3の中で主に話題になっている。

第5期計画では、「土台」として掲載されるという形ではなく、第3期計画同様、各柱の中の重要なキーワードとして位置付けた上で、計画全体に共通する要素として、方向性とは別の箇所（例えば、コラム等）に記載していく方が、よりわかりやすくなると考えている。

「土台」として記載しなくとも、これらの要素についての重要性は変わらないので、引き続き充実を図っていければと考えている。

### (3) 第5期計画の方向性案（説明：区社協事務局次長）

シンプルにまとめ、あいねっとの全体像を理解しやすくすることを意識した。

「みんなで」が第5期計画のポイントとなるため、図のサイクルで表現している。サイクルの真ん中には区全体計画と地区別計画が連動している図を描いており、同じ目標に向かって両輪となって進んでいくことを表現している。

#### 〈柱1〉

地域の団体の少子高齢化等による担い手不足などの悩みが増えているが、鶴見区のポテンシャルを最大限に発揮できるよう、既存の枠組みを超えてつながっていくことが大事である。

目指す姿としては、子どもや子育て世代など、あらゆる世代が地域とつながっている姿や、地域を支える人材が生まれる土壌がある姿としている。

#### 〈柱2〉

困っていると言いづらいそもそも自分が困っているのか分からないといった不安を解消するには、日頃からの見守りと声かけが大切である。

目指す姿としては、一人ひとりの多様な背景を相互に理解できる姿としている。

#### 〈柱3〉

これまでは高齢になった際に健康でいられるために健康づくりをといったニュアンスが強かったが、それだけでなく、若い頃から健康づくりに取り組むことや、足腰の健康だけでなく、人との交流、生きがいや役割が持てる場や機会があることが大切である。

目指す姿としては、年齢や障害等に関わらず、その人の状態に合わせて健康づくりの場に参加できる姿や、ボランティアや地域活動等に参加し、居場所や役割が持てる機会がある姿としている。

土台は全体に共通するキーワードではあったが、文脈上柱に紐づけた方が表現しやすいため、柱に溶け込ませている。一方で、3つの柱もきっぱり切り分けられるものではなく、土台に限らず3つの柱も重なり合っていくイメージである。

〈八森委員〉今までの説明では「鶴見区に関わる全ての方々の計画」というのを強調していた。そのためには、「あいねっとを身近に思ってもらう」ということが重要だと思う。

事務局から、大野さんと浜田さんの二人は、この場にいる方々と比べて、このプロジェクトの話をするまであいねっとがそこまで身近でなかったと聞いている。

方向性案の発表を受けて、フレッシュな視点を持っている二人から意見をいただきたい。

#### (4) プロジェクト委員からの情報共有

〈大野委員〉

##### ■つながりづくりの難しさを感じたエピソード

個人タクシーの運転手が臨海フェスティバルで自分のタクシーにシールを貼り、PRをして多くの子どもたちと交流した。

その後、街中でタクシーに手を振った小さい女の子にちょっとしたシールをプレゼントしたところ、警察に通報されてしまった。

運転手はその出来事をSNSに投稿したところ反響があった。

SNSでは「子どもは地域みんなで見守るのではなかったか？」という声があった。

一方、「タクシーの運転手が小さい女の子に声をかける行動は不審者そのものである」といった意見もあった。

##### ■交通に関すること

鶴見区内も交通が不便な地域へ取組が始まっており、馬場、獅子ヶ谷については臨港バスがオンデマンドで運行することになった。

問題になるのは、高齢者がオンデマンドバスを利用できるのかである。交通に関するイベントや事業の利用促進についても計画に盛り込めるとよいのではないかと考えている。

東寺尾についても、バス停から300メートル以上離れている場所が多くあり、東宝タクシーと他の会社さんとで普通のタクシー会社ではあまりしないような取組をしたいと考えており、個人的には運転手に見守りの要素を入れるとよいのではないかと考えている。

〈浜田委員〉

最近、いくつかの地区に出て子どもの状況について伺っていると、共働き世帯が増加しており、平日日中のイベント参加者が減っていると聞く。参加するとしても0から1歳の子どもをもつ親である。

福祉は言葉自体がシニアよりに聞こえてしまう。シニアよりのイメージが先行してしまっていると感じる。「みんなで」という意味では入口の部分のハードルを下げる必要があると思う。

「あいねっと」の計画を作りましたと言うと、あいねっとを知らない人からするとハードルが高く、「福祉」の計画を作りましたと言うと、先行したシニア世代のイメージの影響で、自分には関係ないと思う人もいるだろう。

「あいねっと」や「福祉」となる前に、例えば「Happy」とすると、自分にも関係があると思わせることが重要であると感じる。

普遍的な何かといえば、防災や健康は誰もが興味のある事柄である。

最初の扉の段階で「分かりづらいからいいや」とならない工夫が必要なのではないだろうか。



〈八森委員〉

各グループそれぞれ

- ①「地域活動をしている方に向け」
- ②「あいねっとについて知らない方に向けて」
- ③「高齢者・こども・障害者・外国籍の方に向けて」

という視点から意見交換してほしい。

(5) 意見交換（グループワーク）

[Aグループ]

- ・情報の届け方を検討する必要がある。若い世代はSNSでの発信が届きやすいが、同じ世代でも時間があるときに「手にとってゆっくり見たい」人もいる。紙と電子の両方の媒体が必要である。
- ・策定したときだけではなく、常に発信し続けることが必要。広報よこはまの区版ページに、小さくてもいいので何かしらのPRを載せる。常に目に留まることが大切である。
- ・活動の場でも、周知が必要である。推進委員を通じて等、あいねっとの活動を伝えていく。
- ・紙で防災についてのリーフレットを作成し、マンション内のサロンで見たか聞いたが、だれも見えていないことが分かった。見たいとなるような、配慮が必要である。
  
- ・あいねっとの「あい」は、助け・支え「合い」の「合い」から、ねっとはネットワークのネットから取った表現である。説明を聞くと理解できるが、始めて知る人は、耳で聞くと「あい」は「i」や「eye」などと、イメージが様々で捉え方が違ってくる。
- ・あいねっとの語源となる「理念」を近くの位置に表現しないと、一般にはわかりにくい。
- ・「福祉」という言葉を聞いて、「シニアの取組」ととらえる人もいることを聞いて正直びっくりしている。改めて人によって、様々ととらえることがわかった。
- ・「福祉のイメージ」で困っている人に「手を貸す、手を借りる」という上下の関係でなく、表現を越えて、障害のある方、ない方が「対等な立場」であることを表現してほしい。人はお互いに人権があり、対等でありアシストし合う関係がいい。
- ・防災訓練で、視覚障害者が参加する予定だったが、当日、荒天で足元が悪いため「視覚障害の団体の方は、参加を見送ってはとうですか」という旨の連絡があった。配慮なのかもしれないが、排除されたと捉えた。
- ・防災はこどもから大人、障害の有無にかかわらず共通して取り組めるもので関心が高いテーマである。あいねっとの取組の一つとして、様々な方々が参加できるため防災をテーマにした活動を広げていけるとよい。
- ・声かけの工夫次第で、新たな参加者につながることもある。
- ・防災のマップは障害がある方も理解あるいは見ることができる工夫が必要。

[Bグループ]

- ・若い子供を連れてきた親御さんは地域の人に声をかけられることが嫌で髪を染めたり、サングラスをかけたりしている人もいる。福祉保健活動拠点や地域ケアプラザと関わることはあるが、誰だかわからない人に町で声をかけられることを望まない層は一定数いる。

- ・ 今日もあいさつ運動をしてきた。公共交通機関で席を譲ったり挨拶をするなど、当たり前のことでも勇気がいる場面が沢山あると思うので、地区でバッジを作成して、声をかける際の背中を押せるようにしている。
- ・ 声をかけてきた人がバッジを付けていると、声をかけられた人も一定の理解がある方だと認識をして安心感につながるかもしれない。
- ・ 認知症の啓発バッジの作成を団体から県に2から3年がかりで要望を出して作成してもらった。デザインは認知症の勉強をした高校生が案を出して、最優秀賞が形になった。見守りのバッジと一緒に、声をかけた人がバッジを付けていると声をかけられた側も驚かない。
- ・ 歩いている時に小学生に後ろから急に挨拶をされて驚いたことがあった。真相はわからないが学校によっては怪しい人には先に声をかけるということを教えているらしい。地域でのあいさつがあまりない場所は犯罪が起こりやすかったりするという話を聞いたこともあり、あいさつすることによる効果もあると思うが、「声をかけようと思って声をかけている」ということが相手に伝わらないと、ビックリしてしまうこともあるかもしれない。
- ・ 地域の方からあいねっとの認知度を高めなきゃという声をよく聞くが、知らず知らずにやった活動があいねっとに繋がっているという見え方の方がいいのではないか。
- ・ 自分が「あいねっとでこんな話をきいてきたの」と言って他の人に報告したらよいと思った。
- ・ LINEでオンデマンドバスを呼ぶのは市の事業かもしれないが、それに+αの取組をして（高齢者の利用の支援をするなど）、それがあいねっととなればいいのではないか。その事業をあいねっとも一緒にやっていると知らせてもよいのではないか。例えば「その事業のやり方を教えてあげるなどの取組をして、それをあいねっととする」などはいかがか。
- ・ 横浜市では小学生がバスの運転手に降りる時に「ありがとうございました」と言う教育をしているが、それによって救われているバスの運転手は沢山いる。
- ・ 子どもがあいさつをしたことにお礼として、運転手が車外放送+手を振っている状況を見かけたことがあり、とても感動した。
- ・ どこかの自治体で横断歩道での歩行を車が待ってくれたときは、渡り終わった後にお礼をするという話を聞いたことがある。待っていても止まってくれない車もいる中で、そういったちょっとしたことがきっかけで交通ルールが良くなり、地域も良くなるといったこともあるので、わかりやすい行動が浸透できるといいのかもしれない。そして、そういった行動が実はあいねっとなんですよと言えるといい。
- ・ 交通安全協会では安全のための行動の講座などは行うが、あいさつをすることが安全につながるとは教えていなかった。
- ・ 「挨拶をしましょう」のみだとただの標語になってしまうので、シチュエーションを示してわかりやすくできるといい。
- ・ 一度、地区別計画から「挨拶をする」という目標を卒業した地区もあったが、再度目標にも戻ってきた地区もあった。目標達成して次に進むというよりは、継続して取り組むべきものという認識である。
- ・ バスの運転手のことのように嬉しかったこと（でも、あえていちいち人に言わないこと）をホームページで募集する。成功体験などがあればわかりやすくなると思う。言われた時の嬉しさを発信できるようにする。

[Cグループ]

- ・あいねっとについて知らない方に向けて「We Love Tsurumi I Love Tsurumi」のような分かりやすい標語をかかげ、とにかく鶴見を知ってもらおう。
- ・「鶴見で幸せに暮らすためのガイドブック」だと皆に思ってもらえるようなタイトルで共感を得て、手に持ってもらおうような仕かけをする。「福祉保健計画」と目に入ると扉を開けてもらえない。自分事に思ってもらえるような仕かけをする。極端に言えば、「ビール一杯10円」みたいなイメージで、生活の質が向上するかもしれないと思ってもらえるようなものがよいのではないか。
- ・住民全員参加するようなキャンペーン。参加しやすいイベントを行い、情報を発信する。
- ・YouTube動画プロモーション的なおしゃれなものもよいのではないか。
- ・地域には若い人も一定数いるが、関わりが難しい。共働き世代が多い中で、地域の行事に参加ができない（時間的な制約）人もいる。「一緒に行事をやりましょう」ではなく、「行事に参加しましょう」の方がよいのではないか。
- ・担い手として参加が難しければ、外部委託をして行事を運営してもいいと思う。行事に参加したという思い出が、いつか地域行事に参加できた成功体験ではないが、地域への恩返しにつながる。退職後など、時間ができたときに地域の担い手として戻ってきてもらえると思う。実際、会長達もそうで、若い時は地域のことを今ほどは考えていなかった方も多し。
- ・地区別計画に障害者当事者の方が関わっていないイメージがある。先日の選挙で政策の内容よりもどんな人が話しているかなどビジュアル的な視点も大切だと感じた。例えば受けのいい写真を掲載するだけでイメージが違うのではないだろうか。
- ・障害者、精神障害の方を受け入れてもらえる土壌がない。偏見をなくすための活動をしたがゆとりがないのが現状ではないだろうか。
- ・多文化共生は難しい。外国籍の方は、国ごとにまとまり暮らしているので困ることは想像よりも少ないかもしれない。学校に行く子どもは日本語を覚えて、生活に馴染むことができる。まずは子どもを取り込むことができれば交流が広がるのではないか。
- ・「ハッピー」がキーワードになると思う。楽しいこと、イベントを通して、障害のある方、外国籍の方に出て来てもらい、楽しさを共有するとよいのではないか。生活の中で共有することは難しいが、楽しいイベントを通して交流する場が必要かと思う。
- ・地区別計画については、他地区の活動のヒントなどがあり参考になる。
- ・地区別計画については平易に書いてあり、活動していない人も見やすいようなイメージで。
- ・皆に使ってほしいということなら、概要版はもっと記載量を落としてもいい。
- ・概要版は漫画で気軽なもので、本冊子はそのままでよい。
- ・「区全体としてこういう取組をやっていきます」のようなキャンペーンができればいい。
- ・参加しやすいイベントを作り、いっぱい参加してもらおうとよい。

(6) グループワーク振り返り (八森委員)

〈八森委員〉全体の流れを踏まえ、お話いただいた。

計画について表現についてのご意見を多くいただいた。

例えば「I Love Tsurumi」のようにみんなに共感してもらえるようなキャッチコピーを目立つところに持ってこようということであった。

グローバルな言葉をひとつ持ってきて、具体化するのアメリカの大統領選でも使われる手法である。そう言った見せ方がよいのではないか。

まず手に取ってもらうためには、例えば表紙のデザインを工夫するのもよいかもしれない。デザインについては、頭を柔らかくして、できることを考えるとよいのではないか。

ボランティアをどうアシストするのか、対等をどのように表現するのかについても重要である。「対等」については、あいねっとの精神を伝えることができ、みんなが入りやすくなるキーワードになると思う。

あいねっとの概要版を、例えば「つるみで幸せに暮らせるガイドブック」のように、福祉のことでなく自分のことであると思ってもらえると手にとってもらいやすいのではないか。

活動については、みんなが助け合うことを入り口にして、つながる場を作ろうということで、防災を切り口にした例もあった。

担い手については、今は楽しいことや面白いことがないと参加者は参加しなくなっているため、企画自体が難しくなっていると思う。一部外部委託をしながら、例えば、参加のみでよいことを呼びかけることが大切ではないか。

参加者を募るということに関しては、ネットワークを構築することが大事ではないかといった意見もあった。

あいさつについては、具体的にどんな場とするのかを具体的に示すことで日常に溶け込むのではないかと思う。

PRの話では、紙媒体もやはり重要ではないかといった意見があった。適切な人に適切な媒体で届けることが大事である。広報の中でもコラム等いろいろなものを盛り込むことや、何かの活動をするたびに、これもあいねっとだと繰り返し言い続けることも大切である。

あいねっとの基本理念を示して活動することや、迷惑をかけてもよいというメッセージを伝えることも大切なのではないかと言った意見もあった。

計画の中に盛り込む内容について、今回様々な意見が出た。計画策定がますます楽しみである。

#### (7) 事務連絡（説明：事業企画担当係長）

次回は来年の1月24日（金）に第2回あいねっと推進委員会を実施し、場所は区社協の会議室BCで行う。時間は14時から16時で実施する予定である。

今回説明した「方向性案」については、正式には1月24日の推進委員会でご説明させていただき、推進委員の皆さまにご確認いただくという流れで進めていく。

また、1月の推進委員会では2月15日（土）に実施する鶴見・あいねっと推進フォーラムについても報告させていただく。

現時点では来年度の秋に区民意見募集を予定しており、その前には、第5期鶴見・あいねっとの大きな構成についてご報告させていただく機会をいただければと考えている。スケジュールの検討が終了次第、お示しさせていただく。

#### 5 閉会

これで本日の策定検討プロジェクトは閉会いたします。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。